



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：モッタキ外相のインタビュー

(7月2日付 IRNA)

1. 中東和平問題について

- (1) イラン国民と政府は、他のイスラム諸国と同様に、聖地エルサレムを首都とするパレスチナ独立国家樹立におけるパレスチナ人の権利、及びパレスチナ難民の帰還の権利を防衛してきている。
- (2) 最近のガザにおける出来事は、全てのイスラム諸国にとって懸念すべきものである。イランは、現在の状況はパレスチナの如何なるグループにも利益ではないと考える。イランは、メッカ合意を支持し、パレスチナ拳国一致内閣を支援している。
- (3) イランは、パレスチナの現在の情勢に懸念を表明すると同時に、現況下で、非現実的な犯人探しを迫らすべきではないと考える。何故ならば、現在の状況をもたらした真犯人は、まさに、拳国一致内閣発足後、パレスチナ国民の意思を尊重しなかった国々及び当事者であるからである。
- (4) (最近のガザでの出来事にイランが関与しているとのサウジ、エジプト、PA による非難に関し) 自分は、本件に関してエジプトの友人に加えられている圧力については理解している。
- (5) パレスチナでの現況に鑑みれば、ファタハとハマスとの間で、多くのアラブ諸国が強調している諸問題の解決の為の方法を生み出す為に、真剣で建設的且つ前提条件を付さない対話が必要なことは明白である。
- (6) パレスチナ人同士の闘争にパレスチナ人の武器が使用されるべきでない。何故ならば、これらのグループは、パレスチナ人自身の合法的権利の奪回に向けて努力し、その為に団結せねばならないからである。

2. イランとアラブ諸国関係について

- (1) イランは、自らの経験と能力を域内諸国に供与する用意がある。イランは、この政策を念頭に置き、常に域内であれ、安保理であれ、アラブ連盟であれ、集团的協力の枠組みにおいて努力してきている。イランは先般、アティーヤ GCC 事務局長にイランと GCC との間で自由貿易交渉を行うことを提案する書簡を送った。又、先般のムーサ・アラブ連盟事務局長のイラン訪問時には、両者間の協力の方策について意見交換を行った。
- (2) (イランによるアラブの諸問題、就中ガザ問題のイラン核問題への利用の可能性について問われ) 自分は各メディアを通じて、イランは常にアラブと共にあり、自分の問題の解決の為にアラブの問題を利用する必要はないと述べてきた。イランは、常に域内の全ての国々との兄弟的・友好的関係の確立を望んでいる。我々は、イスラム革命後の長きにわたり、又、特に過去2年間において、近隣諸国と最も良い関係を持っている。この良好な関係は、双方間の会談、首脳レベルの意見交換及び方針決定の結晶である。

- (3) 敵対国に対するイランとアラブ諸国の立場は明白である。当然のことながら、域内諸国と対立姿勢をとる如何なる理由もない。イランと域内諸国は常に賢明であらねばならない。何故ならば、敵達は手をこまねいてばかりしてはいないからである。イランと域内諸国との良好な関係は、イランと域内国との間における騒動と分裂を望んでいる一部の者たちにとって好ましいものではないからである。イラン及び地域の敵達は、常にイランと域内諸国間に分裂や対立を生み出そうとしているが、我々は、如何なる問題も対話によって解決が可能と確信している。

3. イランの核問題について

- (1) イランは、核問題の道程は理論的且つ建設的の道を進むべきと確信している。イランは当初より、対話と交渉こそが核問題の道程における最善の方法だと表明し、イランの核問題を安保理に送って対立を煽るような方策の採用を避けるように努めてきた。かかる扱いは政治的な措置であり、本問題の正しい解決方法は本問題を IAEA に戻すことである。
- (2) イランは、今後三週間以内に現在進行している交渉を行う用意がある。その為にも、全ての当事者は本交渉を支援すべきである。
- (3) 交渉の道程には、二つの根本的基軸が存在する。即ち、本交渉は、イランは核兵器を開発することはなく、又、核の平和利用の為の技術を保有するイランの権利を受け入れるという枠組みで行わなければならない。この二つの基軸は、双方にとっての基礎的且つ建設的な土台であり、交渉の継続に資するものである。
- (4) 最近のイランとエルバラダイ IAEA 事務局長との交渉では、双方は交渉こそが本問題を検討する上で信頼し得る方法であると確信した。政治的対立であれ、制裁の実施であれ、対立的方法は正しい方法ではなく、又、望ましい結果に至るものではないことを示している。